

基本情報

研修名

“修羅場”に強いPM養成講座

所要時間

1日（6時間）

受講対象者

中堅社員、プロマネ候補者、次世代リーダーの方

その他

受講者の年代やレベルに対応した内容でカスタマイズ可能

講座の特徴

● 実例ベースで実務に役立つ

講師が日本通運で手がけてきた様々なプロジェクトを基に、修羅場に直面したときにプロジェクトマネジャーやITマネジャーが採るべき思考法と行動パターンを伝授します。

● ケース演習とグループワークで実践力を身に付ける

八方ふさがりになったときこそ、冷静な状況判断とステークホルダーマネジメントが重要になります。実例を基に作られたケース演習とグループワークを通して、状況を整理し最適な行動を採るためのプロセスを身体で覚えます。

講師紹介

野口 雄志 氏

グリットコンサルティング 代表



1953年生まれ。1971年、日本通運総務部通信課(情報システム部門)入社。米国日通のロスアンゼルス支店システム課長、東京国際輸送支店システム統括課長、米国日通の米州地域情報システム課長、米州地域情報システム部長を歴任。2007年に日本通運 常務理事IT推進部長に就任。2014年に同社を退職し、グリットコンサルティング合同会社を設立。プロジェクトマネジャーやITマネジャーの育成やIT推進組織のマネジメント改革を支援する。日通総合研究所のシニアアドバイザーも兼務。米国プロジェクト・マネジメント協会(PMI)認定国際資格、プロジェクト・マネジメント・プロフェッショナル(PMP)を取得。

時間	内容
10:00～ 12:00	<p>基本編 修羅場に遭遇したときの思考・行動パターン</p> <p>プロジェクトは計画通りに行かないもの、そして、八方ふさがりになる修羅場は突然やってきます。ある程度は未然に防げますが、それでも想定外の事態は起きえます。そのとき、プロマネやITマネジャーはどうすべきか。講師が日本通運にて手がけてきた様々なプロジェクトを実例に、修羅場に遭遇したときの思考・行動パターンの原理原則を解説します。</p>
13:00～ 16:30	<p>実践編 ケース演習で実践力を磨く</p> <p>修羅場に直面したとき、八方ふさがりになったときこそ、冷静な状況判断とステークホルダーマネジメントが重要になります。実例を基に作られたケース演習とグループワークを通して、状況を整理し最適な行動を採るためのプロセスを身体で覚えます。3時間で3～5個のケース演習を行います。</p> <p>利用するケースは講師が実際に日本通運で直面した様々な実例を基にしています。例えば、「複数部門で利害が対立、固まったはずの仕様が二転三転。デッドラインが迫る」「工期と予算をめぐって、経営側、ユーザー部門、ITベンダーの板挟みに」「委託先ITベンダーの能力に疑問。開発メンバーを変更したい」といったケースです。</p> <p>様々な立場の参加者がいらっしゃるため、汎用的に利用できるケース演習をベースにします。より実践力を高めいただくため、受講者への事前アンケートを基にケースの内容を適宜改変します。</p>
16:30～ 17:00	<p>まとめと質疑応答 修羅場を未然に防ぐには</p> <p>プロジェクトの修羅場は100%防ぐことはできませんが、ある程度は予防できます。ケース演習を通して、新たな防止策や注意点に気がつくはずです。研修の振り返りとして、想定外の事態を防ぐ、または、発生しても影響を最小限に抑えるためのポイントを解説します。受講生からの質問は講座内で適宜受け付けますが、最後にあらためて質疑応答の時間も設けます。</p>